

かわかみ通信

2018年 9月
臨時長月号

猛烈な暑さが続いています。熱中症は大丈夫でしょうか。昔風に言えば暑気あたり一かくれ熱中症（体に熱がこもっている感じ。しかし汗をかかず、体がだるい）にも注意して下さい。水分の補給を積極的に！

またまた神紋の続きです。前回三嶋大社の神職の話として、五七の桐の社紋と角切三の神紋の区別をしていることを書きました。一方、瀬戸内海の大三島にある大山祇（オオヤマヅミ）神社の紋は「折敷に縮れ三文字」です。三嶋大社の主祭神は大山祇命（オオヤマヅミのミコト）ですが、両神社の関係は不明です。普通に考えると大山祇神社を祀る人々が三島に移動したということになりますが、どうでしょうか？ ちなみに大山祇神社は大山積神（大山祇）を祀る神社の総本宮とされているのです。

彦天火明命（アマテルクニテルヒコアマノホアカリノミコト）に關係する神社です。名前は違いますが同一人物とされています（諸説あり）。

まず岐阜県にある南宮大社（ナングウタイシャ）、ご祭神は金山彦命（カナヤマヒコノミコト・天照大神の兄神）ですが、配祀に彦火火出見命がおられます。宮津の籠（コノ）神社のご祭神は彦火明命（ヒコホアカリノミコト）です。奈良県の鏡作坐天照御魂神社（カガミツクリニマスアマテルミタマジンジャ）のご祭神は天照国照彦天火明命です。彦火明命は饒速日命（ニギハヤヒノミコト）ともいわれ瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）とは別の天孫族で瓊瓊杵尊の子孫の神武天皇がヤマト入りいた時に既にヤマトに勢力を持っていたとされ、神武天皇のヤマト入りに反対した長髓彦（ナガスネヒコ）妹は饒速日命の妃）を殺害し（実際に殺害したのは饒速日命の息子、石見物部神社の御祭神、宇摩志麻遲命（ウマシマジノミコト）との話もある）、帰順したことになっています（日本書紀）。物部氏の祖ともいわれています。



大山祇神社の神紋
「折敷に縮れ三文字」

愛媛県今治市にある大山祇神社の拝殿

話は少し横道にそれましたが、三嶋大社の例にならえば我が氣比神宮はどうなるのでしょうか。十六八重菊紋、五七の桐が社紋で三つ巴が神紋なのでしょうか？ それとも全てが社紋であり、神紋なのでしょうか？ よくわかりません。

三つ巴紋はそもそも八幡神社系に多く見られるとされており、八幡神社ということになると応神天皇、神功皇后が祭神として祭られています。氣比神宮の祭神にも応神天皇、神功皇后がおられます。（氣比神宮が仲哀天皇を祀る氣比社と八幡神社を合わせたものではないかという私見の因でもあります）さすれば三つ巴紋は応神天皇、神功皇后の紋なののでしょうか？ 天皇・皇后であれば五七の桐、または十六八重菊でよいのではないかと？ そうすると八幡神社（八幡神）は元々別の神ではないのだろうか？ という疑問が出てきます。

さて、今回は応神天皇（誉田別命）、神宮皇后（息長帯比売命）などが祭神となっていない神社で、三つ巴紋を使用している神社を紹介します。

グループ①として、彦火火出見命（ヒコホホデミノミコト）、彦火明命（ヒコホアカリノミコト）、天照国照



岐阜県垂井町にある南宮大社の拝殿



南宮大社の神紋
「十六弁菊」「右三つ巴」



奈良県にある鏡作坐天照御魂神社の拝殿



鏡作社の神紋
「五七の桐」「左三つ巴」

一方籠神社の御由緒紀によれば、彦火火出見命（別名・彦火明命）が有名な籠船に乗って龍宮へ行かれたとの伝えにより籠宮としたとあります。海彦山彦物語の山彦＝彦火火出見命（彦火明命）とされており、その孫が神日本磐余彦（カムヤマトイワレヒコ）で後の神武天皇です。

（次号に続く）

川上医院 院長 川上 究

よたよたすきの

奮闘記

第六弾

しょうわのすたるじーたんさくのまき

「昭和ノスタルジー探索の巻」

昨日は雨風が強く肌寒い1日だったが、今日は一転、気持ちの良い、真つ青な五月晴れだ。「今日は何処へ行こう?」「今日は敦賀の繁栄の源である港界隈から松原までの昭和ノスタルジーを探しに行こう」とのこと。で金ヶ崎緑地に集合。

以前かわかみ通信Vol.17新春特別号にてご紹介した「命のピザ」でユダヤ人難民が敦賀の地に降り立ったといわれる地点が本日の出発点だ。



ユダヤ人が降り立った場所より出発

最初に立ち寄ったのは、赤レンガ倉庫の横を大正から昭和にかけて汽車が通っていた跡地だ。

その片隅に、今は暗渠となった目倉川の大正橋の欄干がひっそりと置かれている。Qちゃん歴史の流れに感慨を深める。



目倉川あとに建つ大正橋の欄干

「赤レンガ倉庫」を左手に見ながら西に向かう。オッサン3人がこんなところを歩いているので、側を通る車の人が怪訝そうな顔をして通り過ぎていく。

敦賀市民文化センターによる。ここには敦賀港築港に私費を投入し、敦賀の街の発展に大きな足跡を残した郷土の偉人「大和田莊七」の石造が立っている。敬意を表し3人で一礼。続いて相生通りに入る。見る

大和田莊七翁の石造前に整列



と「清明の朝市」が開催中。ちよつと寄り道。清明通りの正面に今は廃業となった敦賀酒造の跡地が見える。これもまた雰囲気のあるノスタルジックな素晴らしい建物だ。まちづくりを活かせる良いものに。



ノスタルジーな雰囲気を残す「敦賀酒造」あと

次に向かうは川崎町。ここら辺は戦災に遭ってないから古い町並みが並び、その時代には賑わっていた通りである。古い商店等は殆どが廃業。住宅は新築して、町並みは相当変化している。そう言っているや否や、右手にこれまたレトロな建物が出現。「ああこれは確かに何やつたっけ」「そうや風呂屋や、銭湯や」「確かにこれは千鳥湯の

跡や」これはまさに昭和そのものである。これもまちづくりにか活かせないものだろうか。誠に惜しい。



まさに昭和レトロ「千鳥湯」あと



大和田別荘跡地にアパートが建っている

その4、5軒先にも古き良き建物が。何とここは居酒屋とか。「これはエエな」「今度1回来ようか」「絶対行こう」すぐに決まる。後日約束を遂行。

いい雰囲気を通りだ。のどかで静かな町である。そぞろ歩いていると、右手に州江院、松島橋を渡ると松島町。Qちゃん「おうここは大和田別荘の跡地や」今は見る影もないアパート

と駐車場になっている。「あれが残っていると値打ちがあるのになあ」誠に惜しい限りである。この通りも戦後は海水浴客で相当賑わっていたのを覚えている。嗚呼懐かしや。

松原公園に到着。中に入ってみる。そういえば小学生の頃泳ぎに来たことを思い出す。それ以来かもしれない。昔はここに「ゴーカートがあったな」「水族館もあったし」「サルもおつたで」オッサン3人小学生に戻る。そのまま砂浜に出る。白砂青松で日本三大松原で有名な「気比の松原」を久々に散歩するとは。



久しぶりの松原。絶景かな

最後に楡川の別宮神社へ参拝し、無事散歩を終えた。今日は天気もよく気持ちの良い1日であった。(河)

【発行】平成30年9月1日(土)

かわかみ通信Vol.23

(臨時長月号)

医療法人 川上医院

福井県敦賀市松原町1-39

TEL: 0770-22-0977